

まち地域づくりファイル

大崎市流地域自治による、地域や地区の特性を生かした個性あふれる地域づくりを紹介します。

5 鳴子温泉地域 川渡地域づくり委員会

地域住民が川渡に住んでいて良かったと思える地域に！

川渡地域づくり委員会は、川渡地区公民館を拠点に、地域住民が地元に住んでいて良かったと思えるような、幅広い世代に合わせた事業を展開しています。

「地域を元気にしたい！」その思いを形にできないかと模索していたところ、平成26年に川渡温泉駅開業100周年を迎え、その機会に地域を盛り上げようと有志を募りました。委員会を中心とし、地区公民館の支援と観光協会、旅館組合の協力を得ながら、夜遅くまで話し合いを重ね、みんなで知恵を出し合い、100周年を記念したイベントとして、出店や古川学園高等学校吹奏楽部の演奏などで盛り上げました。

川渡地域づくり委員会は、地域を元気にするため、話し合いと住民参画を大切にしたい地域づくりを実践しています。

■地域を元気に！川渡マルシェがスタート

川渡地域では、商店の閉店に伴って買い物難民が増え、大きな地域課題となっていました。

100周年記念イベントの一環として、「川渡マーケット」と銘打って地元の皆さんが作った小物や野菜などを販売したことが大変好評でした。地域の皆さんから毎年続けてほしいという声があがったことをきっかけに、現在の「川渡マルシェ」がスタートしました。

初めは、出店者を集めたり、運営予算の確保に苦労しましたが、自治会や企業の代表、地区公民館職員らで構成する川渡マルシェ実行委員が、アイデアを出し合いながら取り組んできました。

川渡マルシェの特徴は、出店者の「売る楽しさ」、購買者の「見て回って買う楽しさ」。そこに互いのコミュニケーションが生まれ、口コミでどんどん広まって、今では観光客も楽しめる場となっています。スタートから3年目になり、出店者が川渡地域外からも参加するようになりましたが、地元からの

出店が少ないのが現在の悩み。今後、地元からの出店拡大をねらい「地域の発展の一助に」と思いを強くしていますが、参加協力への理解を得るためには地道な周知・啓発活動が必要」と遊佐委員長は話します。



▲今年5月に開催した川渡マルシェの様子

■地区公民館図書室の充実を期待！

地区公民館は、地域住民の拠り所として、川渡マルシェのような地域づくり事業や各種教養講座の展開、サークル活動の利用場所となるほか、図書室も備えています。司書資格を持つボランティアの協力のもと、新刊書の選定、ジャンル別コーナーの設置などを行っています。

図書は、地域の皆さんから読み終えた本を提供してもらうことで、年々冊数が増え、貸し出しも増加傾向にあります。図書室は子どもからお年寄りまで幅広い層が利用していて、「新刊をもっと増やしてほしい」と声があがるほどです。地域の活性化のため図書室のさらなる充実が期待されています。



▲地域の人が書いたイラスト



▲ジャンル別に整理した本棚

わがまち企業訪問

市内の優れた企業を紹介します



▲近藤若菜さん

▼小川杏奈さん



自動車樹脂部品を製造する共伸プラスチック株式会社（本社工場・埼玉県飯能市）は、平成22年に市と企業立地協定を結び、古川清水の石田工業団地内に平成23年7月から宮城工場として稼働しました。宮城工場では、トヨタ自動車車系工場の東北進出に対応し、トヨタ自動車東日本岩手工場、宮城大衡工場へ製品を納めています。カローラ、アクア、シエンタ、C-HRの内装樹脂部品の成形・組立を行う工場で、1日当たり約1800台分の部品を出荷しています。

社内は3部門4課で構成され、毎月部署ごとに業務の改善活動を実施するとともに、「笑顔を大切に女性が働きやすい環境」を会社の方針として取り組んでいます。社員の

平均年齢は30代と若く、社員同士が明るく話しやすい環境で、仕事に対し熱心に取り組む姿勢と活気に満ち溢れている職場です。

入社5年目になる小川杏奈さん、近藤若菜さんは製造2課所属の同期生。

小川さんは、学生の頃から車に興味があり、製造の仕事に就きたいと入社しました。現在は、成形品に表皮を巻く組立工程の監視者として、生産計画や在庫管理などを任されています。

近藤さんもまた、車に興味を持ち手先が器用なことや、お兄さんが自動車関係の仕事をしていることも影響し入社しました。表皮が巻かれた上級グレードのセンターコンソール部の組立工程で、部品点数を多く扱うため集中力を保つのが大変だそうです。

組立工程は、一つ一つ手作業で行います。繊細な作業のため手に負担がかかり、手荒れなど女性には大変な作業ですが、「自分が組み立てた製品の自動車を見かけると、うれしさと誇らしさを感じます」と仕事に対するやりがいと熱意を話す小川さんと近藤さん。

社内では中堅層になる2人は

社名 共伸プラスチック株式会社
宮城工場
所在地 古川清水字新田 68-7
本社 埼玉県飯能市
(昭和43年11月創立)
代表者 代表取締役社長 多田 恵一郎
取締役宮城工場長 小野寺 徹
設立 平成23年7月稼働

共伸プラスチックは、女性の活躍がさらにと光る会社です。独自の先端技術でコストと生産効率のバランスをとりながら、クオリティ向上を追求する地域が誇る企業です。

後輩の指導にも熱心で、手作業でしか分からない力加減など「勘とコツ」を伝えることが難しいと感じているそうです。

共伸プラスチックは、女性の活躍がさらにと光る会社です。独自の先端技術でコストと生産効率のバランスをとりながら、クオリティ向上を追求する地域が誇る企業です。



共伸プラスチックで扱う部品